

目指す子供像と二宮町の小中一貫教育

目指す子ども像（ 3月3日 案 ）

「自分の強みを生かして心豊かに生きる子」

実現のための小中一貫教育は

- ①連続した9年間で基礎学力の確かな定着を図る
- ②異年齢集団の中で自尊感情と、自分の良さを生かす実践力を育てる
- ③異年齢の子ども同士の関係性の中で多様性を理解し、協働して課題解決する力を育てる
- ④9年間の地域学習を通じて郷土への愛着や誇りと、世界に向けた広い視野を育てる

グループでの協議メモ

再 掲（第3回研究会資料より）

9年間でめざす子ども像と実現のための小中一貫した義務教育内容、学校、家庭、地域の役割（案）

- 1 自分の良さを理解し、生かしていこうとする意欲と実践力を持った子
 - ・自他の良さを理解し、命を大切にする子
 - ・自信をもって自分の良さを生かし、新しいことに挑戦する子

- ・自他の特長を知り、互いに補い合って課題を解決できる子

<実現のために>

大人は

- ・子供の権利を尊重し、子供の声にしっかり耳を傾ける。

学校教育では

- ・命の大切さを教える。
- ・異年齢や幼児、大人とのかかわりを広げ、深める。
- ・主体的な学習課題の設定と学びを保障する。
- ・学年が上がることに期待感を持ち、異学年とのかかわりの中で自尊感情が育つ工夫をする。

家庭・地域では

- ・命の大切さを教える。
- ・適切な環境整備に努め、子どもの良さを認め伸ばす。
- ・子どもの力を信じ、家庭や地域の中でできることは子どもに任せて自信を育てる。

2 社会で通用する基礎学力、読解力、語学（英語）力を身に着けた子

- ・自ら学習課題を持ち、意欲的に学ぶ子
- ・必要な学力を身に付け、義務教育終了後の目標が持てる子
- ・社会生活に必要な読解力、語学力を身に付けた子

<実現のために>

学校教育では

- ・興味を持って主体的な学習課題の設定と学びを保障する。
- ・学年が上がることへの期待感、学ぶことへの興味、関心、意欲を育てる。
- ・義務教育終了時に基礎基本が確実に身に付いているよう、学び直しの機会を作るとともに、学び進めの機会を作るなど、個に応じた指導を充実させる。
- ・特別な支援が必要な子どもたちの個に応じた指導を充実させ、自己有用感を高める。
- ・読解力の育成に努める。
- ・英語教育の充実を努める。
- ・家庭・地域と連携してキャリア教育を充実させる。

家庭・地域では

- ・学習資源の提供に努め本物に触れる機会を作る。
- ・学校の教育活動を充実させるために協力する。
- ・特別な支援が必要な子供とその保護者への理解を深め協力する。

3 多様な個性や特長を理解し、協働して前に進む子

- ・自他の違いや良さ、多様性を理解し、協働して課題解決を目指す子

- ・ 自他の弱みや強みを理解し、補い合いながら社会生活を送れる子
- ・ 豊かな対話や他者との関わりを通じて社会性を高める子

<実現のために>

学校教育では

- ・ 教科等の学習において協働による課題解決を充実させる。
- ・ 対話を通して、最適解、納得解を求める場を大切にする。
- ・ 異年齢で共に学ぶ場を充実させる。

家庭・地域では

- ・ 子供と一緒に社会事象に目を向ける機会を持つ。
- ・ 子供との協働活動を充実させる。

4 郷土への愛着や誇りを持ち、広い視野に立てる子

- ・ 二宮町を愛し、郷土ではぐくまれた心や知恵を広い世界で活かす子
- ・ 世界に目を向け、自国や郷土を理解する子
- ・ 地域、社会の発展に向けて、できることから行動する子

<実現のために>

学校教育では

- ・ 教育活動に地域学習を取り入れて充実させる。
- ・ 教師自ら地域活動に関心を持ち、教育指導に生かす。
- ・ 子供とともに地域の良さや課題を理解する。
- ・ 子供とともに世界事象に目を向け、理解を深める。

家庭・地域では

- ・ 地域に関心を持ち、子供とともに積極的に地域に関わる。
- ・ 子供とともに世界事象に目を向け、理解を深める。

目指す子供像に沿った小中一貫教育の推進

全ての子供たちの豊かな未来の実現を目指し、小中一貫教育の機能、コミュニティスクールの機能を活かし、学校・家庭・地域の協力、協働のもとに、9年間連続した義務教育を推進していく。